

アジア選手権選考方法に関する要望書

2024/6/28

アスリート委員会

アスリート委員会の要望

1. 現在の選考方法を一旦保留する
2. 選考方法を選考レースにする、または現行の日本、世界ランキング、WOC スプリントを中心とした選考方法から切り替える

基本的な考え方

選考の前提として、要項が出た時点ではほぼ全ての選手にチャンスがある状態であることが好ましいと考える。これは恣意的な選考を避け、選手の権利を保証する面でも非常に重要である。選考の精度は、あくまで公平な機会での選抜の上に成り立つものと考えている。

ランキングを選考に使用する場合は、少なくともランキングポイント計算開始時点の一年前に要項、または事前告知を行ってほしかった。日本代表要項、強化方針、ともにランキングが選考に非常に重要視されるとの記述はなかった。

日本オリエンテーリング協会選手選考規定第6条(1)に記された

「各選考機関は、実質的選考日から十分前に選考基準を公表し、選考対象選手に対して公平な選考となるよう努めなければならない。」

という条文があるので、参考にしてみてもはどうだろうか。

通常選考を行う場合、十分な期間を持って告知がなされる。例えば、トライアスロンではオリンピック3年前に要項が出され、選考大会、必要なランキングポイントが示されている。入試などにおいても、例えばセンター試験のように方式が変わる場合は数年前に告知される。今年のWOCの選考も、選考会、強化選手、アジア枠など全ての選手に要項発表以降目指すチャンスがあったので、公平性はあまり問題にならなかった。今回の要項も、例えば9月頃に方向性が示されていれば、ワールドカップやランキング大会に計画的に出場するなど、ほぼすべての選手が出場を目指して行動を起こせたと考えられる。

選考で過去の成績を完全に取り去ることは困難である。しかし、本選考は、ランキングという過去の成績が重視される指標を用いている点、WOCという一部の選手以外出場機会がない大会でスプリント選考の大半が行われる点などから、公平性に対する懸念がある。

現行の選考方法の懸念

ランキングを用いた選考方法の告知が遅く、代表入りが不可能な選手が発生している

今回の選考は、ほとんどが日本、世界ランキングをもとに行われている。従って、告知時点で全日本、公認大会などのランキングポイントが十分に稼げていない場合は、努力の余地がほとんど残されておらず、出場機会が限られてしまっている。

例えば、日本ランキングの期限は1年なので、計画的に大会に出場しランキングポイントを稼ぐことが必要である。しかし、本告知が行われた6/22では、全日本大会などポイントが稼げる大会は終了している。従って、アジア選手権を目指していた一部の選手にとってランキング選考による通過は非常に難しいものとなっている可能性がある。

世界ランキングも同様である。世界ランキングは、直近2年のうちにポイントを稼ぐワールドカップ、世界選手権に出場することが重要である。しかし、6/22の段階で出場可能なスプリントワールドカップはない。残りのワールドランキングイベントも限られ、選手のアジア選手権への挑戦機会が十分に確保されていない可能性がある。また海外遠征は、長期的な計画が不可欠である。従って、ワールドランキングを用いた選考を基準日3か月前に告知することは、公平性を損ねる可能性がある。長期のレース成績で選考を行う場合は、早期の基準発表は重要ではないだろうか。ⁱ

今後の方向性の提案

以上の理由により、選考に現状のランキングを用いること、および世界選手権を代表選考レースとすることはアジア選手権を目指してきた選手の挑戦機会を奪うことにつながりかねない。アスリート委員会として、以下の提案を行う。

1. 選考レースの開催

アジア選手権の選考のために、スプリント、フォレストの選考レースを行う。

選考方法の告知が6/22となってしまった以上、ランキングを用いることは公平性の観点からあまり適切でない可能性がある。従って、選考は、選考レースを設定し、公平に代表選手を決定する環境を整える方法が考えられる。選考レースは、誰もが出場でき同一の条件で実力が評価できる。今年状況では、選考レースの開催、およびその結果での代表決定が適切と考える。また、より正確に選手の実力を評価するため、複数レースの開催も視野に入れることも検討する価値があると考えられる。

例えば、WREと被っていない日程の今から申し込めるランキング大会を2つか3つ選考指定レースとして、優先選考枠以外を指定レースの合計ポイントで決める。または、フォレストは、今大会はミドルとリレーのみなので、全日本ロングの結果は考慮せずミドル3位までで選考するなどである。

2. 選考要項発表日以降の日本ランキングによる選考などに切り替える

上記の理由により、1年、または2年有効なランキングポイントで選手を評価することは好ましくない。また、この段階から海外遠征を計画することはあまり現実的ではない。従って、要項発表日以降の日本ランキングポイントを計算するようにして、すべての選手が同一のスタートラインに立たせることも選択肢としてあるのではないだろうか。

3. 強化選手の選考について

強化選手は、要項にアジア選手権の選考で優位になる旨が明記されている。従って、選考において優位性を持たせることは妥当と考える。しかし、強化選手内で選考を行う際も、要項発行以降の指標で評価するのはどうだろうか。

4. スプリント WOC の選考

アスリート委員会で、スプリント選考に関しては意見が分かれている。

スプリント WOC を中心とした代表選考は、WOC 代表以外の出場機会が制限されてしまい、選考の公平性に疑問が残る。現状の選考は、WOC への挑戦を断念し、アジア選手権を目指していたスプリント選手の挑戦機会が失われている。今年は、ユニバーや EOC など夏季に遠征する大会が多い。それらへの出場を選んだ選手、また冬季のアジア選手権だけを目標に取り組んでいた選手に対する枠を十分に用意するのは重要ではないだろうか。従って、世界選手権を代表選考レースの中核にせず、補助的に用いるのはどうだろうか。

①賛成の立場

・日本代表の成績として、直近で日本選手が最もフォーカスしたスプリントレースで結果を残して WOC を走る選手の中から決勝進出の実力者もしくは成績上位者を選ぶのは、フォレストの強化選手から優先される 4-1 と同等である。

・ランキング、選考会、全日本 S といった複数の入り口、かつある程度の取組期間から選考された WOC 選手であり、ASOC5 か月前の WOC ということで、時期的にも妥当である。

②中立の立場

・スプリントの残りの枠をランキングで決めるということだが、全日本 S の加点も考えると、今回の選考公表後から調子を上げて結果を残せそうな選手に対する枠が狭いと考えられる。WOC 枠とランキング枠で全員決めると、公表前の過去の結果に偏重しているように感じる。選考公表後から 10 月あたりまでの指定レース (2, 3 レース) か一発選考での枠を 1, 2 枠設ける方がバランスは良い。

③反対の立場

・WOC で最大 4 人選考する方式は、要項の発行時期、および公平性の観点から疑問が残る。限られた選手のみが出場できる大会での選考は、多くて 1 人程度にとどめるべきでは

ないだろうか。

・世界選手権代表の決勝進出は、実力のみならずレーンや出場選手、コース特性など外的要因に大きく左右される。従って、決勝進出が突出した実力を持つとは必ずしも言えない。WOC 代表で選考するならば、例えばスプリント個人戦決勝最上位者、またはトップ比で計算するなど、より客観的評価ができる方法をとるのがいいのではないだろうか。

現行の選考基準に対する意見

・WR と NR を並行して確認するような方式を採っているが、WR と NR では上位に入る選手がかなり違っている（特にスプリント）。実力判断の方法として妥当なのか？(参考資料あり)

・(3)-1-2 及び(3)-2 について、二重で WR を選考基準にしているのは何故？予選通過者以外をランキング選考よりも優先する必要があるか？

・直近で実力を明確に図ることができる全日本大会という場があるのに、重視しない理由が不明。

・フォレスト枠（6名）+推薦枠については、ある程度バランスよく枠が設定されていると思う。

・ただし、日本ランキングだと前年の全日本 M,L（ASOC の1年以上前）の加点が大きいでしょうから、ASOC 直近のレースを重視する枠（一発枠）があっても良く、全日本 M,L の優勝者とは限らず、繰り上げ選考とし、かつ1枠ではなく2、3枠としても良いのかなとは思う。

・選考公表後からの日本ランキングポイントにした方が良いという意見は理解できますが、上述のように今年度の全日本に重みを置けば（全日本がある意味選考会ということであれば）、必ずしも日本ランキングの期間を変える必要はないと思う。

・多数の選手は公表後に（全日本含めて）選考レースがあると考えていたのかもしれませんが、一方で全日本と ASOC を目指す中で、6月以前の段階でランキング本数を満たし、十分な結果を出し、あとは全日本（その先の ASOC）までは調整期間としてレースは重視しないという計画の選手もいたかもしれない。そういう選手にとっては、今回の公表後 9、10月までのポイントのみにすると言われると、計画が狂ってしまい納得がいかないということもあるかもしれない。

参考資料

トライアスロン代表選考要項

<https://www.jtu.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2022/05/06dc9d72ab472d5112a627bada518d80.pdf>

日本オリエンテーリング協会選手選考規定

https://www.orienteering.or.jp/archive/rule/representative_runner_selection_20220228.pdf

WR-NR 比較

添付資料参照

i 日本ランキングの特徴

フォレストランキングも同様の傾向があるので、スプリントランキングで説明します。

日本ランキングは、全日本スプリントの成績が最も重要です。今回は、現実的に選考対象となる可能性があるトップ3を参考にします。トップ3は、全員全日本スプリントで多くのポイントを獲得しています。例えば、現ランキング2位でWOCに出場していない本庄選手は6,610点で日本ランキング選考最有力です。彼の成績を全日本スプリントの成績なしで超えている選手は現状いません。また、ランキング3位の根本選手は、全日本スプリント以外の成績で計算すると6,570点となり、本庄選手は6,525点になります。つまり、アジア選手権の1年前に開催された全日本スプリントで結果を残せていない場合、日本ランキングで2位以内に到達することは非常に難しくなっています。

世界ランキングの特徴

世界ランキングも同様に、ワールドカップ、世界選手権、ワールドゲームスに出場することが非常に重要です。世界ランキング1位のKasper Fosser選手は、上記3レースで5レース分のポイントを稼いでいます。これらのレースは、世界トップ選手が出場するのみならず enhancement factor と呼ばれる点数の補正が行われています。そのため、Fosser選手の直近2年の通常レースのポイントが1,250-1,280点なのに対し、上記3レースでは1,300点を超える成績を出せています。今年全日本スプリントは例外的に高いポイントが出ていますが、概ねこの傾向があります。つまり、世界ランキングを活用する場合、これらのレースに出場する機会がある段階で告知を行うことが重要になります。